信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

２年２組

山羊といっしょに暮らしたいな
～ミロちゃんといっしょ～

山羊のいる暮らし

ミロの一日。
ミロは、みんなより早くおきます。そしてミロは、
「メー、メー」
となきます。しばらくしてみんなが大きな声で
「おはよー」
と言います。そしておさんぽに行きます。
みんながるんるん。ミロもメーメー。
みんなが帰るとミロは、ねます。
ミロの一日。

国語の「かんさつ名人」で、ミロちゃんを観察したＫさんの観察文です。『みんながるんるん。ミロもメーメー』のところが大好きで、何度も読み返してしまいました。この文章からミロちゃんと一緒にいることが日常となっていることがよく分かります。ミロちゃんが私たちの暮らしとなっているのです。

観察で求められるのは、**「五感」**で対象を感じ、それを文章にすることです。見て、触って、嗅いで、聞いて、味わって、観察対象に迫っていく。でも、そのようなことを教わらなくても、２組の子どもたちはミロのことをよく知っています。「三つ つながったうんちがあったよ」、「今日は、なんだかよく鳴いてるけど、どうしたのかな」、「しっぽを上げた。おしっこするよ」、「耳が立っているよ。頭突きするかもしれない」、「ミロってチモシーの匂いがする」。こんなにミロちゃんを感じられるのは、毎日一緒にいるから。そして大好きだから。もうすでに子どもたちはかんさつ名人でした。

ミロちゃんは、おさんぽするときにさくらの葉っぱをおいしそうにたべます。たべる時にかならず首をふります。たべる時は、一回立ってたべます。それからもとのしせいにもどします。
まるで、うちのおにいちゃんみたいです。
ミロちゃんは草むらにいます。
においで、おいしそうな葉っぱをさがしています。
たべたら「バリバリ」って音がします。
まるで、ポテトチップをたべているときみたいです。
ミロの目は、まるの中に線があって、水色です。
ミロはかしこいので、雨がふっていたら、自分からやねがあるこやの中に入っていきます。
まるで、人のようにかしこいです。

2022.7

「ミロは、赤ちゃんだから 13cm５mm がいい」

算数の授業では、藁を切っています。ものさしを使った長さの授業です。

きっかけは、ミロちゃんをゆずってくださった牧場主の小林さんのお話からでした。「小屋に藁を敷くといい」と言うのです。確かに、小林さんの牧場には藁が敷かれています。今、鳥小屋に暮らすミロちゃんは、そこで育ったからなのかチモシー（食用干し草）の入ったエサ箱で寝るようになっていました。その様子を見た子どもたちから、「これじゃあ、せまいよ」、「怪我しちゃうかも」、「うんちしたら大変」などと話が出されました。そこで、どのくらいに切ればよいかの参考にいただいてきたのが、小林さんの牧場で使われていた藁です。このもらってきた藁の長さを調べれば、わかるのではないかと言うことになったのですが、どうやら一本一本長さが違います。全員で 370 本の藁を調べるとグラフのようになりました。

「１６cm が一番多いから１６㎝だよ」、「１５cm 台のシールが多いよ。だから１５cm だよ」と言うようにそれぞれがグラフを読み取ったことを基に話を進めます。確かにグラフを見ると１５cm や１６cm が多そうですが、違う長さで切るのがいいのではないかとする子もいました。Ｉさんは、「ミロは、０才でしょ。赤ちゃんだから１３cm５mm がいい」とします。また、Ｔさんは、「ミロの体の長さを測らないとわからないよ」と訴えます。子どもたちが見つめていたのは、今、私たちのすぐ近くにいるミロちゃんの姿でした。このようなミロちゃんを思う子どもたちの姿に算数の授業ではありましたが、生き物に寄り添い大切にしていきたいという強い気持ちを感じさせられました。

現在、藁を切り始め、それを使った新しいベットが教室前の小屋に置かれる予定です。いよいよ鳥小屋からの引っ越しの日が近づいてきました。ミロちゃんをより身近に感じながらの日々がタートします。今度は、どんな学びが待ち受けているのかと今から楽しみです。

「みんな思いがあるんだよ」

ミロちゃんが来て１カ月余り。先日、首輪がきつそうに感じ、穴を一つ大きくしました。わずかな間に、ミロちゃんの体はどんどん大きくなっています。

そんなミロちゃん。水曜日の３時間目に脱走しました。カギのかけ忘れです。写真は、脱走したミロちゃんをみんなで小屋に戻そうとしている場面です。かごに入った大好物のキャベツで誘い、近くで走るとつられて走るというミロちゃんの習性を上手に利用して誘導しています。ずっと触れ合ってきた子どもたちだからこそできた見事な誘導でした。

そんな子どもたちから、私が学んだことがありました。それは、朝の時間の事です。登校した児童から小屋掃除、餌作り、お散歩などミロちゃんのお世話をしているのですが、この日、私は小屋掃除（糞の始末など）の人数が日を追うごとに少なくなっていることに「これでいいのだろうか」と疑問を感じていました。この日もＫさんとＨさんの２人だけでした。多くの子が散歩へと行ってしまうのです。そこでＫさんと、Ｈさんに「２人でやっているけどいいの？」と投げかけてみました。すると、「いいんだよ」とすぐに答えが返ってきました。「だって、いろんな思いがあるんだよ」、「ミロともっと仲良くなりたいからお散歩しているんだよ」、「そうそう、仲良くなれていない人には、なれさせた方がいいよ」、「あと、ご飯作っている人は、美味しく食べて欲しいって」、「私たちは、掃除してきれいにしたいって、ほら、みんな思いがあるんだよ」、「『お掃除やって』とかじゃなくて、みんなもやりたいことがあるからやらせてあげなよ」。２人の言葉に、自分自身が考えていたことが恥ずかしくなってしまいました。きっと２人の言葉に出合わなければ、私は「どうして小屋掃除しないの」と訴えていたに違いありません。３７人それぞれにミロちゃんへの思いがあって、それに向かって動いていること。それは、強制されるものではなくて、その行為の中で感じとるものであること。２人の言葉に、大切なことを学びました。